

◆司会

それではただいまから市長定例記者会見を始めさせていただきます。市長、よろしくお願いたします。

◆市長

はい。皆さんお気づきでしょうか、この花を今日は飾っていただきましたけれども、静岡市は大変な花の産地なのはご承知の通りでありますけれども、このダリヤ、これだけ見事な紫色でしょうか、生産できるというのはすごく高い技術が必要だと聞いておりますけれども、コロナ禍の中で飲食店への支援金を、今、募集しておりますけれども、どうやって感染拡大防止と経済対策を両立をしていくかということに舵取りを任されているわけですが、花卉業界も大変なピンチであります。様々なイベントが中止になってしまっているということで売上げが著しく減っていると、そんな要望を受けて、何とか私たちは、経済対策だけではなくて、それが何か、市民の皆さんのプラスになる、そういうかけ合わせの中で政策を立案できないかということで検討して、それで、例えば先月14日のバレンタインデーに花をプレゼントしようということ企画しました。また、必ずJR静岡駅の北口から中心市街地に入る時には通る駅の地下、通称しずチカですね。あそここのところに市有地がありますので、あそこで花を販売しようというイベントをしたところ、もう本当に完売しました。大変好評でありました。何となくコロナ禍の中で皆さんがストレスをためている、そういった時にやっぱりお花というのは心の癒しを与えてくれるものでありますので、本当に好評を博しました。

その第2弾で、当然2月14日ならば、3月14日ホワイトデーでありますので、フラワー…、マスク取った方が…ごめんなさい、すいません、シールドがあるからマスクを取ってくださいという指示でしたので、フラワーホワイトデーという名目で、今回お手元に配付の資料がありますけれども、3月14日にこのような企画をいたしました。今週末のホワイトデーに合わせて、再びしずチカを会場にして特別販売を実施いたします。また、ここだけではなくて、ハニカムスクエアでも14日の日曜日、1日限定でお花を販売いたします。このハニカムスクエアも、中心市街地に人を寄せていこうという仕掛けの一つとして都市局があつらえたものであります。ちょっとお年寄りの方でも腰掛けるところが欲しいと、あるいは飲食でコーヒーを飲んだりする場所が欲しいというリクエストに応じて作った、木を使った休憩場所でありますけれども、これも4月以降、好評で設置の継続が決まっております。先日化粧直しもしましたので、そのハニカムスクエアを、この存在というものをアピールするためにも、ここでも販売をいたします。

市民の皆さんには大切な方へのプレゼントや、ご家庭での鑑賞用など、ぜひ地元の静岡市産のお花をお求めいただき、そして、花卉業界の皆様も支えていきたいと思えます。本題に入る前に一言、このことについての呼びかけをさせていただきました。さて、それでは今日の本題、二つ案件がありますけれども、この二つの案件は同じテーマであります。“ないものねだりよりあるもの探し”をしていこうという呼びかけの中で、3次総の計画を進めております。先日施政方針の中で、あと残すところ2年だという話をしましたけれども、年度末でありますので、とにかくこの令和2年度に間に合った、きちっと事業を行うことができたという一つの成果の発表でもありますけれども、皆さん、新しい記者の方もいるのでご存じか…3次総の文章の、この1ページ目の私の写真と一緒に書いてある、このキャッチフレーズが、“ないものねだりよりもあるもの探し”をしていこうと、つまり、自然資源もそうですし、あるいは先人たちが残してくれた歴史資源や、あらゆる地域資源が静岡市にはたくさんあります。

ないものを外から持ってきたり嘆いたりしても仕方ない、それよりも静岡市の地域資源のあるもの探しをして、それを磨いて世界に輝く静岡を作っていこう、あるいは求心力にして交流人口を拡大していこうというまちづくりを進めてきました。その成果が、この二つの案件であります。

一つ目は駿府城公園周辺エリアが新しく生まれ変わりますというテーマです。これは3次総の中の14ページ、5大構想の中にもあるように、歴史文化の拠点づくり、静岡の歴史的な名所の各ランドマークづくりを整備していくというその一環であります。で、これもお手元に2枚の市民向けのチラシと、記者さん向けの横紙の資料がありますので、これをご覧いただきながらお聞きいただければと思います。コロナであれもできない、これもできないということですが、必ず春が来るというか、朝が来るというか、終わりがあるわけですので、その時のために今できることを準備していこうということの成果であります。また一方で、先日、静岡市内で営業されている大型商業施設の責任者の方々と、静岡商工会議所のアレンジで意見交換をさせていただきましたけれども、コロナ禍でただでさえ売り上げを減らしていると、その上によっぱり今、ネット販売と競争しなきゃいけないと、Amazon等々のネット販売がコロナ禍で非常に勢いを増していると、コロナ終わっても、しかし、実店舗を持っている立場からすると、とにかくネット販売に負けないような魅力づくりをしていかなければいけないわけでありまして。そういった中で行政ができる役割は何ですか、というと、街に出かけたくなる仕掛けを作ってほしいということなのであります。とにかくデパートにショッピングに行く、何か買い物に行くという目的プラスアルファの楽しさがまちにあるかどうか、それはネット販売では味わえないものなんですね。商品を買うだけなわけですが、そうではなくて、やっぱりまちへ出かけたくなるという仕組みを作ってほしいと、そして、それを楽しみながらショッピングをする

というようなことを、静岡市ではコンパクトシティの流れの中で整備をしていきたい、これも3次総の目標であります。

その点で駿府城公園周辺エリアを整備してきました。まず江川町の交差点から駿府城公園をつなぐ城内中学校の前の道路を再整備し、東御門の橋の架け替えも完了をいたします。さらに、これは東御門の巽櫓の中で、駿府城ができる前から現代に至るまでの、駿府城の歴史を語るというテーマの内容に、展示を全面的にリニューアルし、来月一日にオープンします。

さらに、駿府城公園を取り囲む二ノ丸堀、通称中堀と呼んでおりますけれども、このお堀で葵舟の運航が今月27日にスタートします。普段は見るできない水面から見上げる形で静岡の駿府城を見ると、この新しい発見があります。非日常の体験になると思います。これも多くの皆さまに乘船をしていただくという流れで、まちへ人を集めていきたいなと思っています。こうした駿府城公園周辺エリアの新しい姿を知っていただくために、今月26日から28日までの三日間を駿府城満喫3Daysと称して、オープニングイベントを連続的に開催していきます。

まず初日の3月26日は、今日から募集しますが、小学校3年生から6年生の子どもたちを募って、子ども見学会というものを行います。子どもたちには歴史文化の誘い道として整備した城内中学校の前の道路を通って、その先の新しい東御門橋、渡り初めを行っていただき、さらに東御門、巽櫓の展示のリニューアルを見て勉強していただいて、そして、最後は葵舟に乗船していく、一足先にこの新しいエリアを満喫してもらおうというイベントであります。ぜひ、たくさんのお子どもたちが応募をしてくださることを期待しております。翌27日と28日には一般の市民の皆さまに参加していただき、この東御門、巽櫓の内覧会を行います。そして、葵舟の運航をお願いしているTOKAIグループさん主催の就航記念イベントも開催いたします。いずれも事前予約、登録をして、感染拡大の予防対策はしっかり講じた上で開催いたしますので、安心してご参加をいただきたいと思っております。

で、この3Daysに先立って報道関係の皆さま方には、この葵舟の就航記念式を3月20日に行いますので、ぜひ取材方、よろしくお願いをしたいと思います。このような形で駿府城公園周辺への求心力を強めて、中心市街地の経済の活性化につなげていきたいと思っております。

話題の二つ目は、プラモデルのさらなる活用の第一歩というテーマであります。これも“ないものねだりではなくあるもの探し”をしていこう、これも皆さん、ご存じのことだと思いますけれども、静岡市にはクラフトマンシップが脈々と受け継がれております。元々、徳川家康公の時代に、これは400年記念事業の時の発見だったわけでありまして、浅間神社とか駿府城とかを造営する時に、全国の腕利きの職人さんをこの駿府のまちに家康公は集めたわけでありましてね。本当に一流の職人を天下の家康公のところに集めたわけでありまして。その方々がそういう歴史的な建築物を、

当時、整備したわけですが、その子孫たちがずっと静岡市に住み着いていて、それが時代の変遷とともに、今、家具産業になったり、ひな人形の産業になったり、あるいはいわゆる木工産業の担い手、いわゆるモノづくりのクラフトマンになってきたわけです。そして、戦後、昭和30年代になって、昔は模型というと木でできた飛行機なんかを、私たちよく作りましたけれども、昭和30年代以降は加工しやすいということでプラスチックが取って代わって、そして、プラモデル産業が発展してきたわけです。今では全国の約80%のプラモデルは静岡市内から生産されるというところまで来ております。そして、今まで私たちはこういうクラフトマンシップ、モノづくりの系譜の中から、“模型の世界首都静岡”というスローガンを打ち出してきました。この“模型の世界首都静岡”という発信力をさらに強めていこうという試みが、これです。

来年度の重点的な取り組みとして、まず市民局が運営しているシチズンカレッジ“こ・こ・に”で新しい講座として、モノづくりプラモデル大学というものを開講していきます。ですので、昔プラモデルの制作に熱中していた当時の子どもの方々に、もう1度そのことを思い出してもらおうと、巣ごもり需要で、この頃、プラモデル、もう一度回帰現象が起こっていると聞いておりますけれども、そんな本格的な講座をシチズンカレッジのところで作ってきたい、整備していききたい、開講していききたいと、あるいは小学校で総合的な学習の時間等々を使って、モノづくりのキャリア教育としてプラモデルに触れる機会を増やしていき、プラモデルのまち静岡市の一員としての共同意識も高めていただきたいと思います。また、今回は縮小開催という形になりましたが、例年5月のホビーショーには世界中から8万人を超える皆さんに、静岡に来てもらっております。ですから、交流人口の拡大という観点でもこのプラモデルというのは静岡市のアイデンティティとして、大変な求心力があります。そこで、このプロジェクトのスタートに向けて、組み立て前のランナー付きのプラモデルをイメージしたモニュメントを、プラモニュメントと名付けましたけれども、これを市内各所に設置していきたく思います。で、このプラモニュメントというのは、すごくインスタ映えもするということでもありますので、昨年2月18日に博報堂ケトル、静岡博報堂と締結した包括連携協定に基づいて制作を進めてまいりました。これもコロナで当初の計画よりも少し遅れてしまいましたけれども、今回、この第1弾となる3カ所4基がようやく完成に至りました。今月19日の金曜日にJR静岡駅南口にてお披露目を行いますので、こちらのほうも取材をしていただければ大変嬉しいなと思っております。

このプラモニュメント、例えば人がモニュメントの一部になって写真撮影ができたり、本物のポストのその一部になっている、そのプラモニュメントに実際にはがきや手紙を投函できるということでもありますし、何よりもインスタ映えができるということでの静岡らしい発信のモニュメントになるのではないかなと期待しております。詳

しいことは配付の資料に記載した通りでありますので、よろしくお願いします。
で、駿府城公園のことについても、プラモデルのことについても、これ、ポイントは官民連携で行ってきたということです。民間企業の皆さんのアイデアとか発想というものを大胆に取り入れて、そして、行政の規制緩和も駆使しながら、官民連携でこの事業をやってきたということが、もう最大のポイントであります。ですので、従来の発想に捉われない、役所としては面白いことやるなと受け止めていただければ、大変嬉しいなと思いますので、どうぞよろしくお願いをいたします。私からは以上です。

◆司会

それではただいまの発表案件につきまして、皆様からのご質問をお受けしたいと思えます。社名と名前をおっしゃってからお願いいたします。いかがでしょうか。NHKさん、お願いします。

◆NHK

NHKです。駿府城公園整備について伺います。今日の言及の中にはなかったですが、最大の資産である発掘現場をどうされるのかという点が、まだ不明瞭ですでお尋ねします。

◆市長

どこの現場ですか。

◆NHK

天守台跡の発掘現場ですね。市長、先ほどお示しの3次総には、「駿府城天守閣の再建を目指し、天守台の整備を推進します」という文言があり、これは撤回されてないと聞いております。確か1年ほど前にあれだけの天守台跡が出たことから、『野外展示を整備するために天守台、天守閣再建はいったん棚上げ』という報道をしました時に、市長、「棚上げというのは間違いだ」という非常に強い言葉でおっしゃられて、でも、その後、野外展示に向けて設計業務の発注が行われ、その中には「イベントが行えるスペースを」ということまで盛り込まれて、結局、天守台再建と天守台跡の保存展示という矛盾することを、どっちを取るのかというのが、いまだに示されていない状況ですが、これについて、どうお考えなのか、お聞かせいただけますでしょうか。

◆市長

おっしゃる通りです。いまだ議論の過程にあると受け止めていただければと思えます。駿府城公園エリアの求心力をどう強めていくかということが目的なわけですから

ども、それをどんな形の展示にするのか、ハードにするのかということは、やっぱり、その時代時代で考えていかなければいけないと思います。社会背景もずいぶん変わりました。で、確かに2015年に実物の駿府城を再建してほしいという市民運動から、このことが始まりました。そのために発掘調査をしなければいけないということになりました。4年間をかけてじっくりやりました。そうしたら、大きく報道していただきましたけれども、全国ニュースになるぐらいの秀吉時代の遺構が発掘されました。そうすると、それを見せるというほうが優先するべきではないかという意見もいただきました。そして、じゃあ実物の駿府城をどう見せていくのか、という中ではICT、AIの急速な発展で様々なやり方ができるんだという議論が広がってまいりました。そういう過程の中で、限りのある財源の中でどういう展示方法が一番魅力的なのかということ、今、議論しているところであります。決まっていることは、この一番のランドマークとしての旧青葉小学校の跡地にできる歴史文化施設、これは2年後の春に決まっておりますので、これを整備するというのが、3次総の中の一番の事業費の掛かるメインの建造物になると理解をしていただければと思います。以上です。

◆NHK

市長が棚上げというのは間違いだということをおっしゃったためか、今でも駿府城を愛する会の中には、「もう保存はいいから天守台、天守閣を再建してほしい。それがされるもんだと信じている」という方いらっしゃるんですけども、その方に対する説明はどうされるんでしょうか。

◆市長

そういう方々の意見と、あるいは要望ということも聞いております。それは、私が地方議員の時からね、いつか21世紀に駿府城を400年ぶりに甦らせたいというようなことは強く、私も期待されておると、ずっときていたということがありますので、それが実現すればいいなという願望を持っています。ただ、都度都度そういう方々に、今、記者にお話しをしたような説明も、聞かれればしていくところであります。しかし、先ほど申し上げたように様々な制約があることも事実でありますので、そのあたりはこれから議論していきたいと思っております。

◆NHK

ひとまず天守台の整備は棚上げということでよろしいんですね。

◆市長

棚上げと言ってしまうと議論が止まってしまうようなことになります。いわゆる行政

計画の中には入っていないということでもあります。これから4次総の策定作業が始まります。その4次総は2023年から2030年までのまちづくり計画になるわけですが、その中にどんな形でビルドインするかということになるかと思います。

◆NHK

先ほどAIなど様々なやり方ができるんだというお話ありましたが、つまり、これ、天守台をバーチャルに、VRなどで見せることも選択肢だと、実物を造ることにこだわらないという意味でしょうか。

◆市長

そういう提案も頂いております。

◆NHK

分かりました、ありがとうございます。

◆司会

その他、発表案件につきましていかがでしょうか。お願いいたします。

◆朝日新聞

プラモニュメントについて伺いたいんですけども、これ、市内3カ所に4基設置ということなんです、これは計画としてこれで全部ということなんでしょうか。それとも、おいおい、また増えるということなんでしょうか。

◆市長

おいおい、増えていきます。

◆朝日新聞

どれぐらいを全体像として想定していらっしゃるんでしょうか。

◆市長

これ、民間企業の皆さんの連携事業にしていきたいと思うんですね。こういうことを面白がってくれる、あるいは、そのお店の集客につなげてくれるという、Win-Winの関係ができれば、私どもはできるだけ多いほうが面白いまちになるんじゃないかなと思っています。

◆朝日新聞

そうしますと、例えば市内の企業さんが費用を一部持つ形で事業所の前に建てるとか、そういうイメージですか。

◆市長

その通りです。

◆朝日新聞

それは模型業者さんに限らずという…

◆市長

もちろんです。例えばマクドナルドさんとかね、スタバさんがランナー付きのロゴにしてくれたっていいわけですね。

◆朝日新聞

このデザインは、どなたか模型関係者の方が監修されたりしたんでしょうか。

◆市長

そうです。

◆朝日新聞

お名前は出せますか。例えばどの業者が監修したとかというのはありますか？

◆市長

そういうことではなくて…

◆朝日新聞

わかりました。あと“SHIZUOKA, A MODEL CITY”と英語で書いてあるんですが、これまで“WORLD CAPITAL”という英語を使っていたらっしゃったかと思うんですが、これは変えたんでしょうか。

◆市長

“WORLD CAPITAL”という言い方？

◆朝日新聞

YouTubeとかで発信した時にそういう表現を使っていたと…

◆市長

ああ、“模型の世界首都”。

◆朝日新聞

そうそう、その英訳ですね。今これだと“SHIZUOKA, A MODEL CITY”というふうに、このランナーに書いてあるように見られるんですけど…

◆市長

まだ統一的な名称というのは組合のほうとも話をしておりませんので、今回たまたま行政がその言葉を使ったのであって、“模型の世界首都”という言葉は模型組合の方々の一つのキャッチフレーズだったのでね、これを、これからは組合だけのものじゃなくて、静岡市のシティアイデンティティにしたいということで、本物の“模型の世界首都”になるために、行政も下支えしていこうじゃないかということであって、英文表記まで、私、意識してなかったものですから、それはどういうものがあるのか、まだ決まっていないと私は承知しています。

◆朝日新聞

でも、このデザインでもう作っているんですよね、このモニュメント。

◆市長

ちょっと認識が違っている。私まだそれ見てないのかもしれないな。どのことをおっしゃっているの？

◆朝日新聞

写真、イメージ図、添付いただいているんですが…

◆司会

ちょっと捕捉をさせていただきます。

◆産業振興課長

産業振興課です。よろしくお願ひします。こちらの“模型の世界首都”というのは、外に打って出るためのキャッチフレーズで、これを使っていこうと思っております。“SHIZUOKA, A MODEL CITY”のほうは、プラモデルのまちだと表すにはどういうのがあるかということで、外の方に聞いてもらったら、「この言葉は遊び心があって、正しい英語というよりも、静岡がプラモデルだと、それを認知されるにはこの言い方

が面白い」ということで、決めさせていただきましたので、本当に端的に、目に入って、先ほど言いましたようにSNSに出た場合に、外国人が見て面白いなと取られる、こういう言葉かと認識しております、こちらのほうを下に付けさせていただきます。

◆朝日新聞

そうしますと、市としては“WORLD CAPITAL”ではなくて、今後はこの“A MODEL CITY”を使っていくということ？

◆市長

そしたらね、ちょっとこれ私が、回収します。谷河課長も大変英語が得意なのかもしれませんが、やっぱりこれね、和製英語でやっていくのか、それとも外国人の方々が…

◆朝日新聞

今まで使ってきた表現を使うのか、これからはこの表現でいくのかということ…

◆市長

だから、そのところも、今、私が、途中で遮られてしまいましたけれども、申し上げた通りね、とにかく外国の方が英文表記でね、「ああ、なるほどそういうまちなんだな、静岡市は」というふうにちゃんと実感してもらえるものがあるのか、業界の方々ともね、あるいは、英語に堪能な方々にもいろいろ投げかけて検討していきたい、もう1回、回収させてください。もう1度検討しなおしていきたいと思っています。初めて、私、記者にね、そのことを指摘されたものですから、ちょっと私そこまで頭がいつてなかったものですから、申し訳ありませんが、そんな理解をお願いします。

◆朝日新聞

わかりました。で、関連の質問なんですけれども、業界の方からはツインメッセの拡充、ホビーショーでも手狭なのでという要望は長年にわたって来ているかと思うんですが、そのへんに関しては検討されていることがありますでしょうか。

◆市長

今、3次総の中ではアリーナの整備というものが検討されております。そこがホビーショーの開催場所としてふさわしいかどうかということは、また別の問題でありますけれども、今、そんなところであります。

◆朝日新聞

すいません、私、今、ホビースクエアと言ったかもしんないですけど、ツインメッセの拡充について…

◆市長

ツインメッセですね。そういうことですね。

◆朝日新聞

ふさわしいかどうかというのは？

◆市長

今、アリーナの検討をしているのはご存じですよ。東静岡の私有地をどう利用しようかということで、アリーナの検討が行われておりますので、そこにホビーショーがね、開催する場所としてふさわしいかどうかは主催者の方が決めてくれることでありますけれども、一つの受け皿、器としては今、それが計画に上がっています。

◆朝日新聞

業界の方には一部、この静岡市にホビーミュージアムみたいなものが、大きいのがあっていいんじゃないかという声を、例えば、ハセガワ社長さんなんか、ずっとおっしゃっているかと思うんですけれども、そのへんに関しては、市長さんはどう思われていますか。

◆市長

私もハセガワ社長からその提案は受けております。これも4次総の議論の中に委ねていきたいなと思っています。

◆朝日新聞

ありがとうございます。

◆司会

その他いかがでしょうか。では発表案件につきましては以上ということで、続きまして幹事社質問のほうをお願いしたいと思います。

◆日刊工業新聞

よろしく申し上げます。東日本大震災から10年という節目に当たり、静岡市の危機管

理体制について改めてお伺いしたいと、2000年以降、新興感染症とか新型コロナウイルスの流行が比較的短い周期で起きており、また地震などの自然災害の増加で、自然災害が同時に起こるというリスクも高まっていると思っております。特に高齢化が今後、一段と進展する中、静岡市として市民の安全を確保すると、そのための新型コロナウイルスのような感染症によるパンデミックが、いつでも起こると想定することが必要じゃないかと、かつ、東日本大震災のような大規模災害に対応できる地域防災計画、これ、現在どうなっているんだろうかと、見直す考えはおありなんだろうというところが1点です。さらにですね…

◆市長

まず、その話、しましょうか。本当に見直さなければいけない時期になっていると、私は理解しております。とにかく災害という範疇が、今回のコロナ禍でリアリティを持って広がったなと思っております。どうしても我々は東海地震、南海トラフの中で災害というと自然災害に、どう対応していこうかという発想で、地域防災計画も今まで積み重ねてきたわけでありましてけれども、いわゆる社会的なリスクですね。感染症対策であるとかテロであるとか、様々な社会的なリスクにも対応していくということをしていかないと本当の意味での危機管理はできないと。

で、こういう社会リスクと自然災害を二つの柱にして、どう危機管理していかなければいけないのか、想定外のことを想定して対処する体制を行政として整えていかなければいけないのか、という観点から立つと地域の防災計画ということも見直しをするということになるかと思っております。今までも年に1回はご関係の方々、オール静岡で集まって修正してきて、1月末に開かれた今年度の(会議)でも、コロナ対応をしたほうがいいんじゃないかというご意見も頂いておりますので、見直しを進めていきたいなと思っております。

◆日刊工業新聞

わかりました。2点目ですが、災害時の企業との連携の在り方ですが、今後、果たして変わるんだろうかと、その考え方についてお伺いしたい。

◆市長

もちろんです。先ほどのプラスのまちづくりのね、駿府城公園とかプラモデルも、民間企業の協力なくしてはできません。もう、税金で市の職員で、直営で全ての公共サービスをするという時代では、財政的にもなくなってきております。

そういう意味ではこの危機管理であるとか防災の点でも、民間企業の力というのは不可欠であります。

で、しかしながら民間企業はボランティアではありませんので、自分の業界あるいは自

分の企業に対して、中長期的にそれがプラスになるという判断で防災に協力していただけということで、我々は様々な連携協定をしているところでありますので、これからもそういう申し出に対しては積極的に対応して、Win-Winの関係になっていきたいと思っています。

◆日刊工業新聞

わかりました。まず、ちょっとこれ以外なんですけど、現在の静岡市のコロナの感染状況というのは、市長としてどういうふうに捉えておられるのかと、全国的に変異ウイルスの感染が広がっていて、特に、この3月は、昨年3月に感染が増加したことによって、4月に宣言とつながったというところもあって、なかなか長期的な我慢を市民のほうにも強いているので、ここらへんでどう呼びかけ、どう取り組んでいくかというところをお聞かせ願いたいのですが。

◆市長

静岡市の新規感染者がこのところかなり抑えられてきたというのは、市民の皆さんの日ごろの感染対策の成果の賜物だと、まずは感謝を申し上げたいと思います。ただ、私の立場からはまだ油断ができる状態ではないと思っております。どうしても静岡市は地政学的にも首都圏の数字と連動するような傾向が、この1年あります。まだ首都圏では緊急事態宣言が発令中でありますので、そこを見定めながら、やはり今は感染拡大防止に力点を置いて市政を運用していかなければいけないと思っております。もうしばらくの辛抱をお願いすることになりますが、よろしく願いいたします。

◆日刊工業新聞

以上です。

◆司会

それでは今の幹事社質問に関連するご質問がありましたらお受けしたいと思います。

いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、その他何かご質問があればお受けしたいと思います。中日新聞さん、お願いいたします。

◆中日新聞

清水区の高橋雨水ポンプ場について、3月末までに消防の許可を得るだったり、内部調査を一段落したいということでしたが、進捗状況はいかがでしょう。

◆市長

指示を出していますので、両局で議論を進めて今月中にやると報告を受けています。

◆中日新聞

先月の議会では、今月中旬に改築費のほうを確定させたい、という話が出ていましたが…

◆市長

実務的には上下水道局、今日、来ているかな、来てないのか。取材していただきたいなと思いますけれども、そう承っています。

◆中日新聞

改築費出ても、発表するという形は取らないということですか。

◆市長

まだそこまで私のところには報告が来ていません。

◆中日新聞

今日、担当課はいらっしゃっていないんですか。

◆司会

また後ほどお答えをさせていただきたいと思います。

その他いかがでしょうか。朝日新聞さんお願いします。

◆朝日新聞

市議会議員選挙が19日に告示を控えています、今回、コロナの状況の中での選挙戦ってことになりますけれども、市長さんのほうに応援要請といえますか、出陣式への出席の依頼とか、あるいは自ら駆け付けたという例というのはございますでしょうか。

◆市長

あります。それはやっぱり私ども、議会の皆さんとの連携協力でこれまで市政を進めてまいりましたのでね、ご縁のある議員の皆さんからそういう要請があれば、それは対応していきたいなと思っていますが、私も公務がありますのでね、その公務優先の中で、できる範囲ということにしていきたいと思っています。

◆朝日新聞

政党的に自民党だけになるんでしょうか。

◆市長

そんなことはないですよ。ご支援が、要請があればということであります。

◆司会

その他いかがでしょうか。NHKさんお願いします。

◆NHK

NHKです。ワクチンについて伺います。ワクチンの実務を担う地方自治体として、市長として今の先行接種、優先接種の中でのアナフィラキシーの報告等々含めた、ワクチンの効果や今後の普及に向けてどういった課題があるとお考えか、お聞かせいただけますでしょうか。

◆市長

アナフィラキシーには万全の注意をしていかなければいけないと思っています。その点で静岡市が大変心強いのは、静岡・清水の両医師会の最大限の協力を得られているということでもあります。集団接種よりも個別接種でかかりつけのお医者さん、その患者さんの体調、基礎疾患をご存じの方々のほうが万が一の対応がしやすいということであるので、個別接種に力点を置いたワクチン接種事業ができるということは、大変ありがたいことだろうと思っています。

◆NHK

市長、以前、2カ月ほど前でしたか、ワクチンの接種さえ始まればというご発言をされたのを記憶しているのですけれども、市長はワクチンが打ち始まれば、もうマスクを外してよくなって、会食もできるようになって、飲食店も活気付いてくるというようなイメージをお持ちなのかどうか、いかがでしょうか。

◆市長

それは時期的な問題だと思います。今日の時点でそれを言うのはまだまだで、ある程度は先ほど幹事社質問に答えた通りであります。ただ、コロナはいずれは終わるという希望を持ってやっていかなければいけないと思っています。

◆NHK

もう1点だけ。接種をした人は、もうマスクを外していい、会食もしていいという

イメージを持たれているかどうか、お聞かせいただけますか。

◆市長

そんなふうには思っていないです。

◆NHK

どんなふうにも思っていないです。

◆市長

慎重にならなければいけないと思っています。ワクチン接種の事業は諸外国で様々な成果といますか、試行が始まっていますのでね、国柄にもよるんでしょうけれども、そういうことも見定めながら、我々の個々の終息に向けてのね、間違いのないそういう施策を、国と連動しながらやってきたいと思っています。県ももちろんですけどね。国、県、市とやってきたいと思っています。

◆NHK

もう一つだけ、接種を普及させるにあたっては、ある程度、例えば、市の職員は必ず接種するようにですとか、場合によってはワクチン接種を証明する何かを発行するですとか、そういったことまで視野に入ってもらいたいものなんでしょうか。

◆市長

強制できるものではないというのが大前提です。しかし、ワクチンが本当に終息に向けて成果が出るのは70%といわれていますので、それを目標に呼び掛けていきたいと思っています。

◆NHK

静岡市において、例えばある時期以降、「接種をしない、していない人は公共施設の利用を認めません」とか、「登校、通園を認めません」とか、そういった何か、権利をセーブさせるようなこととお考えになるようなことはないですか。

◆市長

考えていません。

◆NHK

わかりました、ありがとうございます。

◆司会

その他いかがでしょうか。先にテレビ静岡さん、お願いします。

◆テレビ静岡

東京オリンピックの事前合宿についてお聞きします。他県では相手国と連絡が取れなくなったりとか、あと、自治体によっては受け入れ中止なんかも検討しているところもあるんですが、静岡市において現状そういったことがあるのか、進捗状況があれば教えてください。

◆市長

先日、私、J-STEPに別件で視察をしてきましたけれども、「もし、そのままであるならば、私たちは万全の態勢を敷いて受け入れるよ」とおっしゃってくれたのが、大変心強いなと思っていますけれども、他の自治体の様子を見定めながらね、これから慎重に、市民の安全安心を第一に検討していきたいなと思っています。

◆テレビ静岡

今のところ相手国と連絡が取れないですとか、また受け入れをやめようかみたいなのを検討し始めているなんてことは、静岡市としてはあるのでしょうか。

◆市長

ありません。台湾、スペイン、モーリシャス、そしてカナダも、この頃、静岡でやってきたいというふうに、5大陸のうちのね、4大陸を私たち受け入れる、大きな自治体としての責任を持っていますし、そこで、市民の皆さんとも交流して、そして、国際理解につなげていきたいというのは、このホストタウンの趣旨でありますので、その理念というものを大事にしながら、現実的な対応をしていきたいと思っています。ただ、先方が行きづらくなったということであるならば、それは考慮しなければいけないなと思っています。

◆テレビ静岡

今のところ、それじゃあ、そういう先方からの、ちょっといったんストップするみたいな話も聞いてないってことですね。

◆市長

私のところにはまだ来ていませんけれど、局次長。

◆観光交流文化局次長

観光交流文化局局次長です。先方とは、台湾、スペイン、モーリシャス、ここは連絡を取り合っておりますので、そういう申し出はありません。それから今、カナダっていうお話し出ましたけれど、カナダはまだ締結を結んでいるわけではありませので、向こうからどうだろうかというお話があったという段階です。

◆テレビ静岡

わかりました、ありがとうございます。

◆司会

その他、いかがでしょうか。中日新聞さん、お願いします。

◆中日新聞

市内における新型コロナウイルスの感染状況で、先ほどから慎重な行動だったり、まだ予断を許さないということでしたけれども、最近、市内では一桁なり、ゼロが続いていて、11月から1月に起きているの、いわゆる第3波というのは市内においては収束しつつあると捉えていらっしゃるのでしょうか。

◆市長

数値上はそうですね。ただ、やっぱり、これは人の気持ちで、またリバウンドの危険性もありますので、先ほど申し上げたような呼び掛けをさせていただきました。

◆中日新聞

じゃあ第3波が終わったと捉えてもいいんですか。次そういう…

◆市長

だって首都圏はまだね、宣言下にありますのでね、そう捉えるのは早いんじゃないか、どう思われますか。

◆中日新聞

首都圏と静岡、東京と静岡は前々から同じように捉えてはいけないというのは秋口から市長もおっしゃっていたので、静岡は静岡っていう…

◆市長

レベルが違います、数が違います。しかし、連動しているというのは線で見ると確かにあるんですね。近いということ、新幹線があるということ、連動しているの

で、彼らが宣言下の中にあるという現実を踏まえた慎重な対応が必要だと思っています。

◆中日新聞

夏のころに、いわゆる第2波が終わったところに、市長会見でまとめていただいた市内の感染状況というのを、あれ、また、もうじき3月末なり、4月初めぐらいにありがたいなと思ったんですけども。

◆市長

分かりました。また、これは保健福祉長寿局と議論します。

◆中日新聞

以上です。

◆司会

その他いかがでしょうか。読売新聞さんお願いします。

◆読売新聞

よろしくお願いします。新型コロナについてです。3月1日から静岡市方式新型コロナ在宅ドクターサポート事業が始まりました。で、今、感染状況、落ち着いておりますが、もし、適用の事例があるのかどうかで、それで始まってからの手ごたえのようなものが、まだ早いのかもしれないんですが、もし、あればお聞かせください。

◆市長

今、まだ適用の事例は私のところに報告はありません。これ、万が一の時にこういう体制を自宅療養者に対しても施していくよと、安心安全につなげていくよということでもありますので、使われないのが一番いいのかもしれませんけれども、しかしながら、これは警戒しながらいつでもスタンバイできる、そんな状況にしておきたいと思っています。

◆読売新聞

わかりました、ありがとうございます。

◆司会

その他よろしいでしょうか。

◆市長

何か今のことで補足ある、静岡市方式について。

◆保健福祉長寿局長

保健福祉長寿局です。今、市長からありましたように、まだ適用事例ございませんので、また、これからに備えてということで万全な体制を整えておきたいと思っています。以上です。

◆司会

その他いかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは以上で市長の定例記者会見を終わらせていただきます。次回は3月25日、木曜日となります。本日はありがとうございました。